

為替相場展望

2012年6月

 株式会社 **日本総合研究所**

調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/publication/>

目次

【為替相場概説】	p. 1
◆ドル円、ユーロ相場の回顧	p. 2
◆金利差からみた為替相場	p. 3
米FRBの金融政策と米国の金利動向	
ECBの金融政策とユーロ圏の金利動向	
日銀の金融政策と日本の金利動向	
金利差からみた為替相場	
◆為替需給からみた円相場	p. 7
◆トピックス：ギリシャ、スペイン情勢とユーロ相場	p. 8
◆ドル円、ユーロ相場の見通し	p. 9
【内外市場データ】	p. 10

◆本資料は2012年6月5日9:00時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆本資料に関するご照会は、下記あてお願いいたします。

欧米経済・市場動向グループ

井上 肇 (Tel : 03-6833-0920 Mail : inoue.hajime@jri.co.jp)

為替相場概説（2012年6月）

1. ドル円、ユーロ相場の回顧

<5月のドル円相場>

市場の関心が欧州情勢に向かうなか、中旬にかけて79円台から80円台での小動きが持続。もっとも、下旬以降、スペインでの金融不安の強まり等に伴う世界的な株安を受けリスク回避の動きが強まったほか、米国でも低調な景気指標が散見され始めたことから、月末には78円台まで円高ドル安が進行。

<5月のユーロ円相場>

6日のギリシャ総選挙で反緊縮財政を掲げる政党が躍進したことから、ギリシャのユーロ圏離脱観測が浮上し、ユーロ安が進行。中旬以降は、ギリシャの連立政権樹立交渉の難航が嫌気されたほか、スペインでの金融不安の高まりも加わり、月末にかけて96円台まで円高ユーロ安が加速。

2. 金利差からみた為替相場

<米FRBの金融政策と米国の金利動向>

4月開催分のFOMC議事録では、会合時点で欧州債務問題の再燃や米国景気に対する過度な楽観論の後退があったにもかかわらず、追加緩和は、「景気が失速した場合」等に限られると示されており、追加緩和の実施には高いハードル。もっとも、その後欧州債務問題が一段と深刻化しているほか、足許にかけて低調な米景気指標が散見され始めており、当面は追加緩和への思惑が高まりやすい地合い。先行きの米2年債利回りは、欧州情勢に対する懸念や追加緩和への思惑から当面低下しやすい地合い。もっとも、米国景気の緩やかな回復基調が維持されるなか、欧州情勢に対する過度な懸念が後退すれば、緩やかな上昇傾向に転じる見込み。

<ECBの金融政策とユーロ圏の金利動向>

ECBは5月3日の理事会で政策金利の据え置き等を決定。ECBは、当面、金融政策の現状維持を続ける見込み。先行きの独2年債利回りは、ギリシャやスペイン情勢に対する懸念の強まりを受けて当面ゼロ近傍での推移が続く公算が大。欧州各国の政策対応により、市場の混乱が沈静化に向かえば、一方的な金利低下に歯止めがかかる公算ながら、今後も債務問題が断続的に蒸し返される展開が予想されるほか、ECBによる低金利政策の長期化が見込まれるなか、金利の持続的な上昇は期待薄。

<日銀の金融政策と日本の金利動向>

日銀の「展望レポート」の想定通りに消費者物価が上昇した場合、消費者物価上昇率1%達成は2014年終盤になると試算され、少なくとも2014年までは日銀の超低金利政策が継続される可能性。先行きのわが国2年債利回りは、当面、低下しやすい地合い。その後も、日銀の超低金利政策の長期化が見込まれるなか、低水準での推移が長期化する見通し。

<金利差からみた為替相場>

先行き米国景気の緩やかな回復が維持されるなか、米金利の低下余地は限られ、金利差の観点からは、円高ドル安進行余地は限られる公算。独金利も低下余地が限られるなか、金利差の観点からは、一段のユーロ安進行は見込み難い状況。むしろ市場の混乱が鎮静化に向かえば、米金利、独金利ともに上昇し、ドル、ユーロが小反発へ。もっとも、米欧ともに低金利の長期化が見込まれるなか、本格的なドル、ユーロの上昇は期待薄。

3. 為替需給からみた円相場

投機筋の円売りポジションの巻き戻しが円高進行の一因に。もっとも、直近では円売りポジションはほぼ解消されており、追加の円高進行余地は限られる公算。加えて、わが国貿易収支の赤字基調が継続しているほか、対外直接投資も依然として高水準にあり、引き続き円高抑制要因として作用する公算大。一方で、過去の円安局面で円安ドライバーとなった対外証券投資は引き続き盛り上がりを欠いた状態。

4. トピックス：ギリシャ、スペイン情勢とユーロ相場

ギリシャのユーロ圏離脱懸念やスペインの金融不安がユーロ相場の重石に。こうしたなか、投機筋のユーロ売りポジションが直近では過去最高水準にまで拡大しており、短期的にはユーロ買い戻しが入りやすい情勢。ギリシャのユーロ圏離脱は、最終的には回避される公算が大きく、ギリシャのユーロ離脱懸念が払拭されれば、投機筋のユーロ売りポジションの巻き戻しを誘発する可能性。

5. ドル円、ユーロ相場の見通し

<ドル円相場の見通し>

短期的には欧州情勢への懸念や米国景気の先行き懸念等を背景に、円高に振れやすい地合い。もっとも、①わが国貿易収支の赤字基調継続、②わが国通貨当局の円高回避に向けた強い姿勢、等から、一方的な円高進行の公算は小。米国景気の緩やかな回復基調が維持されるなか、今後、欧州情勢に対する過度な懸念が後退すれば、ドルが反発する公算。もっとも、米国の超低金利政策の長期化が予想されるなか、大幅なドル高進行も期待薄。80円を挟んだ円高値圏での推移が長期化する見通し。

<ユーロ相場の見通し>

ギリシャのユーロ圏離脱懸念、スペインの金融システム不安等を背景に、ユーロ軟調地合いが続く見通し。ギリシャのユーロ圏離脱は最終的に回避される公算が大きく、ギリシャのユーロ離脱懸念が払拭されれば、一旦ユーロが反発する可能性。もっとも、欧州債務問題の抜本的な解決が容易でないなか、持続的なユーロ高は期待薄。

ドル円、ユーロ相場の回顧

リスク回避の強まりや低調な米景気指標等を受け、円高ドル安が進行。ギリシャのユーロ離脱懸念、スペインの金融不安等を背景に、ユーロ安が進行。

〈5月のドル円相場〉

月初、米ISM製造業景況指数の改善を受け80円台を回復したものの、4日には低調な米雇用統計を受け、再び79円台後半へドルが反落。その後は、市場の関心が欧州情勢に向かうなか、80円を挟んで一進一退の展開に。月半ば以降は、スペインでの金融不安の強まり等に伴う世界的な株安を受けリスク回避の動きが強まったほか、米国でも17日のフィラデルフィア連銀製造業景況指数をはじめ、低調な景気指標が散見され始めたことから、月末には78円台まで円高ドル安が進行。

〈5月のユーロ円相場〉

6日のギリシャ総選挙で反緊縮財政を掲げる政党が躍進したことから、ギリシャのユーロ圏離脱観測が浮上し、ユーロ安が進行。中旬以降は、ギリシャの連立政権樹立交渉の難航が嫌気されたほか、スペインでの金融不安の高まりも加わり、18日には100円台までユーロが一段安に。その後、大手格付け会社による日本国債格下げ等を受けて、一旦102円台までユーロが反発したものの、緊急EU首脳会議で債務危機拡大阻止に向けた進展がなかったことや、スペインの金融不安が一段と高まったことから、月末にかけて96円台まで円高ユーロ安が進行。

ドル円相場の推移



(資料)Bloomberg L.P.

ユーロドル相場の推移



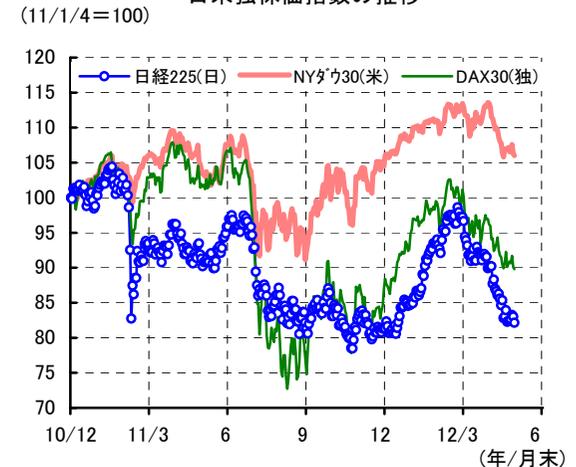
(資料)Bloomberg L.P.

ユーロ円相場の推移



(資料)Bloomberg L.P.

日米独株価指数の推移



(資料)Bloomberg L.P.

米国の追加緩和には高いハードルがあるものの、追加緩和への思惑が高まりやすい地合い。米2年債利回りは低下しやすい地合いを経て、緩やかな上昇傾向へ。

〈米FRBの金融政策〉

米FRBは4月24～25日のFOMCで2014年終盤まで超低金利政策を続けること等を決定。もっとも、FOMC参加者の見通しでは、超低金利政策解除のタイミングが前倒しされたほか、失業率が改善方向で修正され、金融緩和スタンスの後退ととらえる向きも。

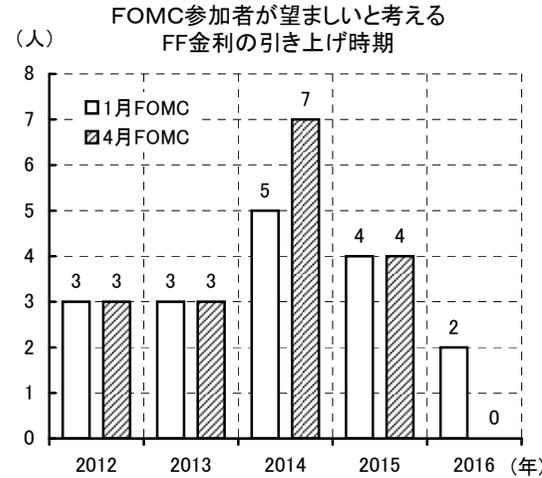
加えて、5月16日に公表された4月開催分のFOMC議事録では、会合開催時点で欧州債務問題の再燃や米国景気に対する過度な楽観論の後退があったにもかかわらず、追加緩和は、「景気が失速したり、見通しの下振れリスクが大きくなった場合」に限られると示されており、追加緩和の実施には高いハードル。

もっとも、その後欧州債務問題が一段と深刻化しているほか、5月の米雇用統計をはじめ、足許にかけて低調な米景気指標が散見され始めており、当面は追加緩和への思惑が高まりやすい地合い。

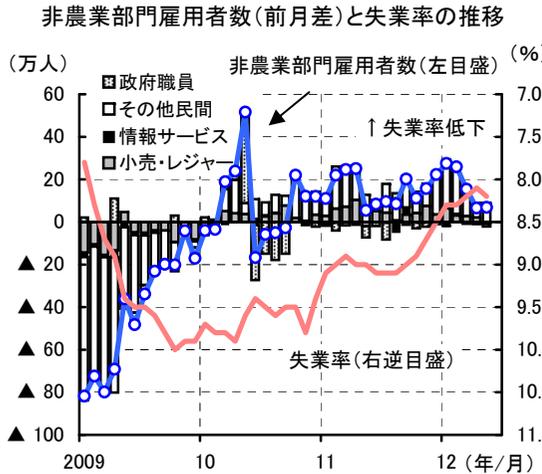
〈米国の金利動向〉

5月の米2年債利回りは、欧州情勢に対する懸念が強まるなかでも中旬にかけて小幅上昇したものの、その後、低調な米景気指標が相次ぎ、月末には低下。

先行きの米2年債利回りは、欧州情勢に対する懸念や追加緩和への思惑から当面低下しやすい地合い。もっとも、米国景気の緩やかな回復基調が維持されるなか、欧州情勢に対する過度な懸念が後退すれば、緩やかな上昇傾向に転じる見込み。



(資料)米FRB



(資料)Bureau of Labor Statistics

FOMC参加者の見通し(4月)

(単位: %)

	2012年	2013年	2014年	中長期
実質GDP成長率	2.4～2.9	2.7～3.1	3.1～3.6	2.3～2.6
1月時点の見通し	2.2～2.7	2.8～3.2	3.3～4.0	2.3～2.6
失業率	7.8～8.0	7.3～7.7	6.7～7.4	5.2～6.0
1月時点の見通し	8.2～8.5	7.4～8.1	6.7～7.6	5.2～6.0
PCEデフレーター	1.9～2.0	1.6～2.0	1.7～2.0	2.0
1月時点の見通し	1.4～1.8	1.4～2.0	1.6～2.0	2.0
コアPCEデフレーター	1.8～2.0	1.7～2.0	1.8～2.0	-
1月時点の見通し	1.5～1.8	1.5～2.0	1.6～2.0	-

(資料)米FRBをもとに日本総研作成

(注)成長率、インフレ率は、第4四半期の前年比、失業率は、第4四半期。

米2年債利回りの推移



(資料)Bloomberg L.P.

ECBは金融政策の現状維持を続ける見通し。独2年債利回りは、当面ゼロ近傍で推移した後、反発へ向かう公算。もっとも、持続的な金利上昇は期待薄。

＜ECBの金融政策＞

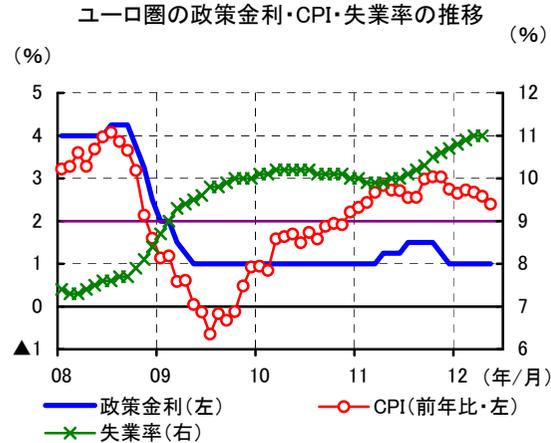
ECBは5月3日の理事会で政策金利を1.00%に据え置くこと等を決定。理事会後の記者会見で、ドラギ総裁は、金利の変更を今回も議論しなかったことを明らかにしたほか、現在の金融政策のスタンスは緩和的と言及し、追加利下げには慎重な姿勢を維持。ECBは、当面、政策金利の据え置きを続ける見込み。

足許、ギリシャのユーロ圏離脱懸念やスペインの金融不安が高まるなか、イタリアやスペインの国債利回りが上昇している一方、ECBによる長期流動性供給(LTRO)の効果もあり、銀行間の取引金利は低位で安定。銀行間の取引金利が安定している間は、追加の長期流動性供給(LTRO)も見送られる公算。

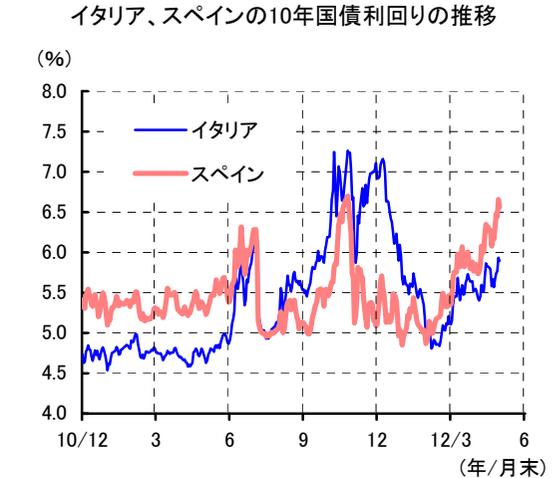
＜ユーロ圏の金利動向＞

5月の独2年債利回りは、ギリシャのユーロ圏離脱懸念やスペインでの金融不安の高まりを受けて、月末にかけて過去最低水準まで低下。なお、6月1日には、一時マイナス金利を記録。

先行きの独2年債利回りは、当面ゼロ近傍での推移が続く公算大。欧州各国による政策対応により、市場の混乱が鎮静化に向かえば、一方的な金利低下に歯止めがかかる公算ながら、今後も債務問題が断続的に蒸し返される展開が予想されるほか、ECBによる低金利政策の長期化が見込まれるなか、金利の持続的な上昇は期待薄。



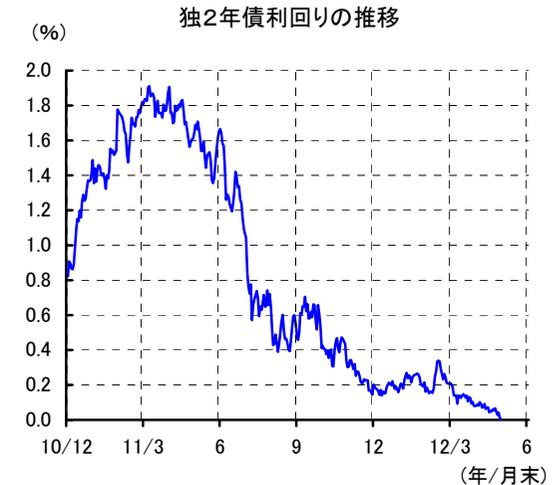
(資料)Eurostat、欧州委員会、ECB
(注)CPIは、Harmonised Index of Consumer Prices。



(資料)Bloomberg L.P.



(資料)Bloomberg L.P.
(注)EURIBOR-OISスプレッドとは、EURIBOR(3か月物欧州銀行間取引金利)とOIS(政策金利と固定金利を交換する金利(3か月物))の格差のことで、銀行間のカウンターパーティーリスクを示す指標。



(資料)Bloomberg L.P.

少なくとも2014年までは日銀の超低金利政策が継続される可能性。わが国の2年債利回りは、低水準での推移が長期化する見通し。

＜日銀の金融政策＞

日銀は、4月27日の金融政策決定会合で、資産買入等基金の増額や、買い入れ対象国債の残存期間延長（2年→3年）等を決定。同日公表された「展望レポート」では、消費者物価上昇率が2月の「中長期的な物価安定の目途」で示した1%に2014年度を含め、遠からず達する可能性が高いとの見通しを提示。

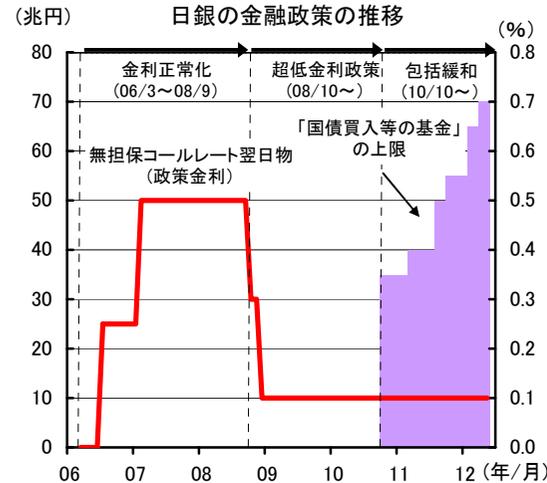
「展望レポート」で示された想定通りに消費者物価が上昇した場合、1%達成は2014年終盤になると試算。このため、少なくとも2014年までは日銀の超低金利政策が継続される可能性。

もっとも、デフレ圧力が根強いなか、想定通りに消費者物価が上昇するかは不透明であるほか、2014～15年度にかけて消費税率の引き上げが想定されるなか、超低金利政策解除時期が後ずれする可能性も。

＜日本の金利動向＞

5月のわが国2年債利回りは、欧州情勢への懸念が強まるなか、月末にかけて一時0.1%割れまで低下。

先行きのわが国2年債利回りも、当面、低下しやすい地合い。欧州情勢への過度な懸念が後退しても、日銀の超低金利政策の長期化や、企業の資金需要の低迷を背景とした市場の資金余剰感等が金利上昇を抑制し、低水準での推移が長期化する見通し。

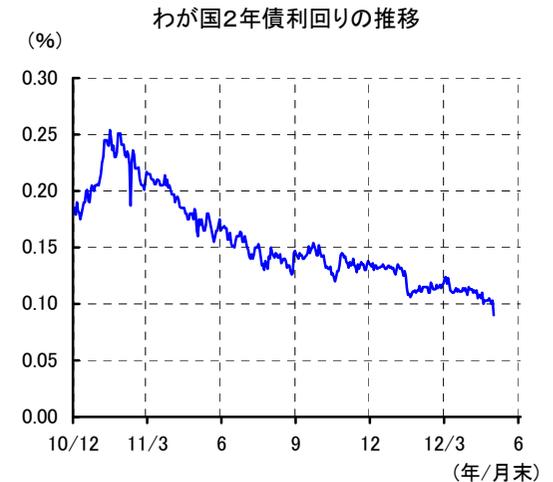
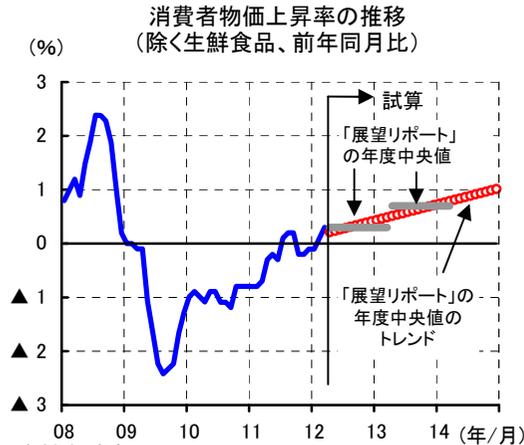


2011～2013年度の政策委員の大勢見通し

(単位: 対前年度比、%)

	実質GDP	国内企業物価指数	消費者物価指数 (除く生鮮食品)
2011年度	▲0.2～▲0.2 <▲0.2>	+1.7	0.0
1月時点の見通し	▲0.4～▲0.3 <▲0.4>	+1.8～+1.9 <+1.8>	▲0.1～0.0 <▲0.1>
2012年度	+2.1～+2.4 <+2.0>	+0.4～+0.7 <+0.6>	+0.1～+0.4 <+0.3>
1月時点の見通し	+1.8～+2.1 <+2.0>	▲0.1～+0.2 <+0.1>	0.0～+0.2 <+0.1>
2013年度	+1.6～+1.8 <+1.7>	+0.7～+0.9 <+0.8>	0.5～+0.7 <+0.7>
1月時点の見通し	+1.4～+1.7 <+1.6>	+0.6～+1.0 <+0.8>	+0.4～+0.5 <+0.5>

(資料)日銀をもとに日本総研作成
(注) < >内は政策委員見通しの中央値。



金利差からみた為替相場④

金利差の観点からは、円高ドル安進行余地が限られつつある状況。同様に、金利差の観点からは、一段のユーロ安進行は見込み難い状況。

＜金利差からみたドル円相場＞

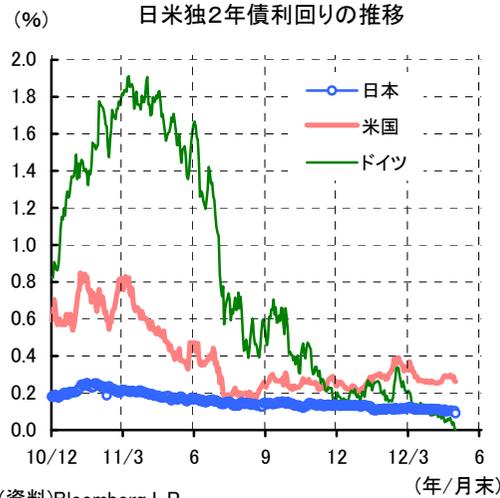
5月中旬までは、米金利が下げ渋るなか、ドル円相場も底堅く推移したものの、月末には米金利が低下し、円高ドル安に作用。なお、過去1年の金利差から推計すると、足許の金利差に見合うドル円相場の水準は、1ドル=79.4±2.7円程度(注)。

先行きについては、欧州情勢への懸念が強いなか、米金利が低下しやすい地合い。もっとも、米国景気の緩やかな回復が維持されるなか、米金利の低下余地は限られ、金利差の観点からは、円高ドル安進行余地は限られる公算。むしろ、欧州情勢に対する過度な懸念が後退すれば、米金利の低下一服に伴い、ドルも小反発へ。一方で、米国の超低金利政策の長期化が見込まれるなか、本格的な円安ドル高進行も期待薄。

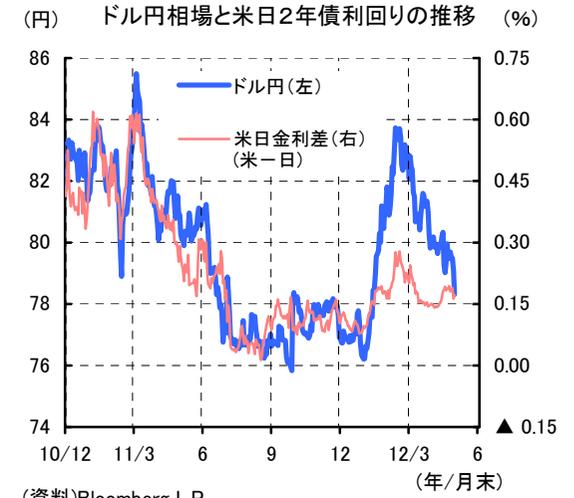
＜金利差からみたユーロ相場＞

5月入り以降、独金利が米金利、わが国金利以上に低下し、対ドル、対円でユーロ安に作用。もっとも、独金利の低下余地が限られるなか、金利差の観点からは一段のユーロ安進行は見込み難い状況。むしろ、欧州各国による政策対応により、市場の混乱が鎮静化に向かえば、独金利が上昇し、ユーロの反発をサポートする公算。一方で、債務問題の抜本的な解決が容易でないほか、ECBの低金利政策の長期化が見込まれるなか、対ドル、対円での本格的なユーロ反発は期待薄。

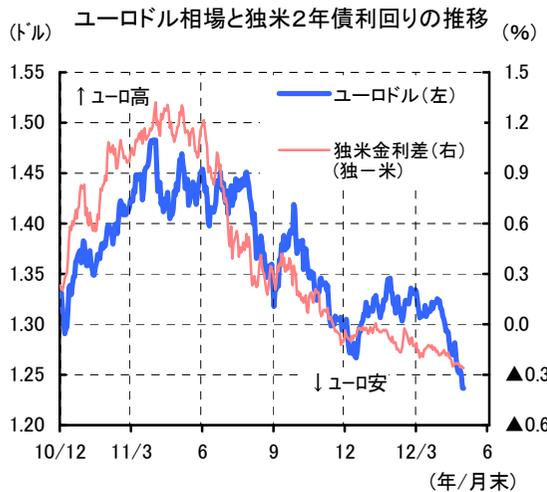
(注) 推計値は単回帰分析で推計した2標準偏差の範囲。



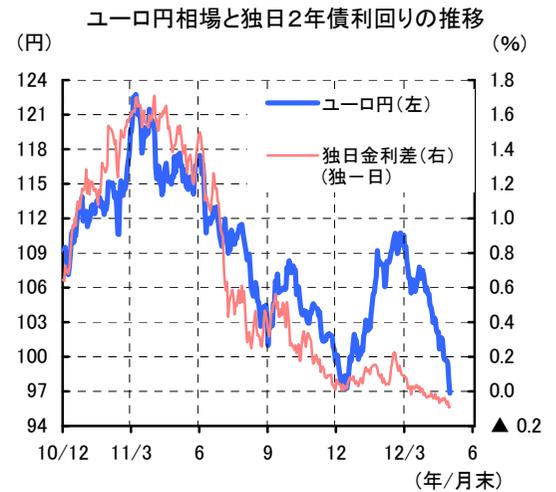
(資料)Bloomberg L.P. (年/月末)



(資料)Bloomberg L.P. (年/月末)



(資料)Bloomberg L.P. (年/月末)



(資料)Bloomberg L.P. (年/月末)

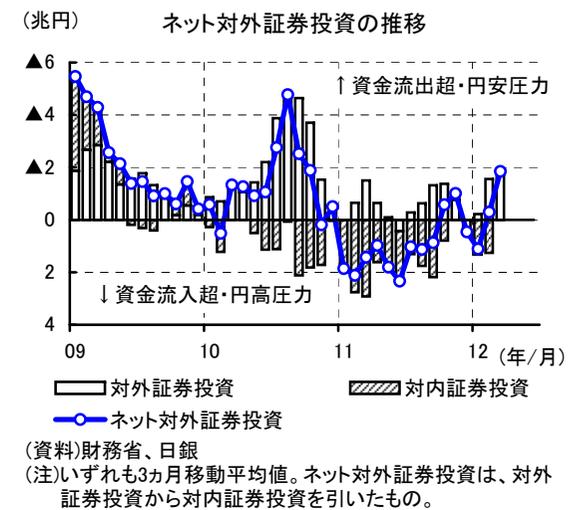
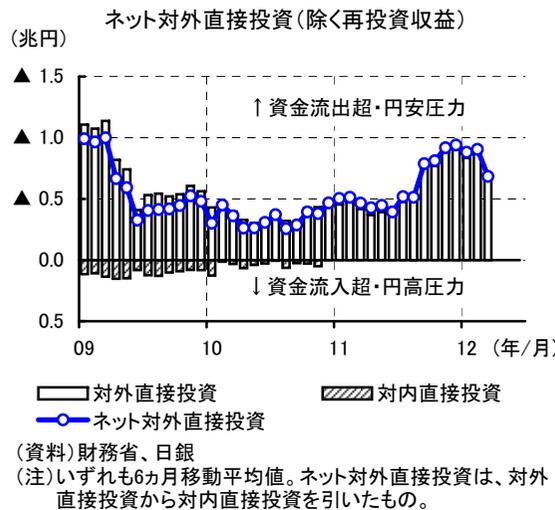
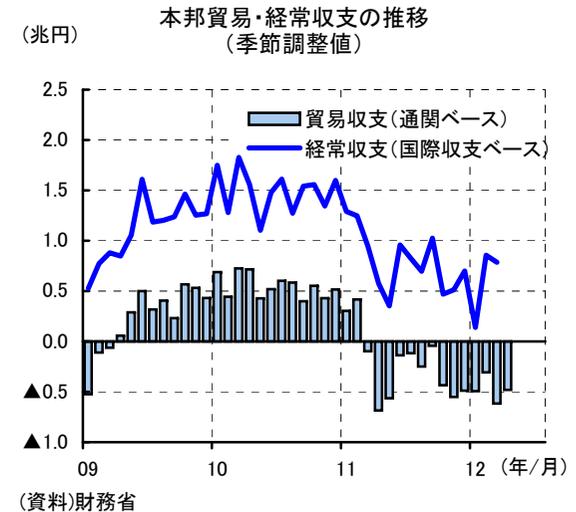
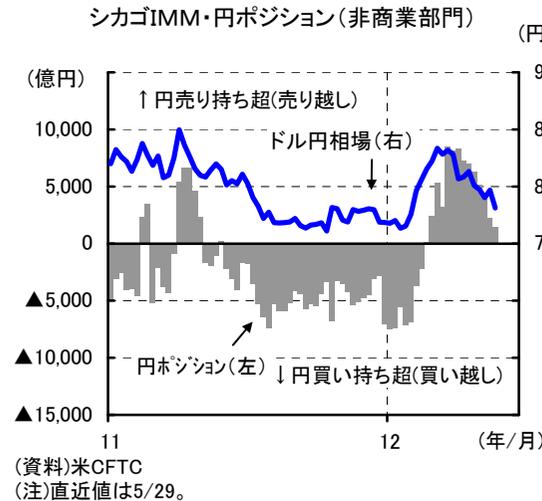
為替需給からみた円相場

投機筋の円売りポジションはほぼ解消され、追加の円高進行余地は限られる公算。加えて、為替需給は引き続き円高抑制要因として作用する公算大。

投機筋の動向を示すIMM通貨先物取引（非商業部門）では、3月下旬から4月上旬にかけて円売りポジションがリーマン・ショック以降の最高水準に達していたものの、その後縮小傾向に転じており、投機筋の円売りポジションの巻き戻しが円高進行の一因に。もっとも、5月29日時点では、円売りポジションはほぼ解消されており、追加の円高進行余地は限られる公算。

加えて、円を巡る為替需給は引き続き円高抑制要因として作用する公算大。第1に、4月のわが国貿易収支は、▲5,203億円と2ヵ月連続の赤字となり、赤字基調が継続。当面を展望しても、新興国景気の回復の遅れ等により輸出の低迷が長引く一方、原発停止に伴う火力発電用燃料需要の増加等が輸入を押し上げており、貿易収支の黒字基調回復にはなお時間がかかる見込み。所得収支黒字に支えられ、経常黒字は維持されるとみられるものの、経常黒字幅が大幅に縮小するなか、円高圧力は限定的となる公算が大。第2に、対外直接投資は、足許ピークアウトの兆しはあるものの、依然として高水準。海外市場の成長期待等から、投資が急減する公算は小。

もっとも、過去の円安局面で円安ドライバーとなった対外証券投資は引き続き盛り上がりや欠いた状態。足許の欧州情勢への過度な懸念が後退しても、欧州債務危機再燃懸念の残存と低水準の内外金利差が投資意欲を抑制する公算。



ギリシャのユーロ離脱懸念やスペインの金融不安がユーロ相場の重石に。もっとも、ユーロ売りポジションが積み上がるなか、ユーロ買い戻しが入りやすい情勢。

ギリシャのユーロ圏離脱懸念やスペインの金融不安がユーロ相場の重石に。まず、ギリシャでは、5月6日に実施された総選挙で、緊縮財政に反対を掲げる政党が躍進したことを受け、ギリシャのユーロ圏離脱懸念が浮上。緊縮財政を推進してきた旧与党と緊縮財政に反対を掲げる政党との間で連立政権樹立交渉が行われたものの、最終的に決裂し、6月17日の再選挙が決定。

スペインでは、2008年の不動産バブル崩壊以降、不良債権残高が急増し、2012年3月末時点では銀行部門の融資全体に占める不良債権比率が1994年以来の水準となる8.37%まで上昇。スペイン政府は銀行部門への公的資金注入の方針などを示したものの、公的資金注入により政府財政が圧迫されるとの見方から、スペインの10年国債利回りは6%を超えて推移。

こうしたなか、投機筋の動向を示すIMM通貨先物取引（非商業部門）では、ユーロ売りポジションが拡大。もっとも、5月29日時点ではユーロ売りポジションが過去最高水準にまで積み上がっており、短期的にはユーロ買い戻しが入りやすい情勢。

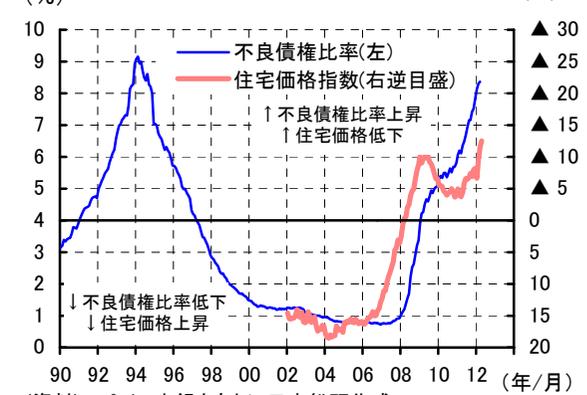
ギリシャのユーロ圏離脱については、①ギリシャの世論調査によれば、ギリシャ国民の大多数がユーロ圏残留を望んでいること、②ギリシャのユーロ圏離脱は現時点では他の周辺国への悪影響が計り知れないこと、等を踏まえると、最終的には、ギリシャとEU・IMF・ECBとの間で何らかの調整が行われ、ユーロ圏離脱は回避される公算が大。ギリシャのユーロ圏離脱懸念が払拭されれば、投機筋のユーロ売りポジションの巻き戻しを誘発する可能性。

5月6日のギリシャの総選挙の結果

		5月6日の選挙結果	
		議席数	得票率 (%)
旧与党	新民主主義党(ND)	108	18.9
	全ギリシャ社会主義運動(PASOK)	41	13.2
	計	149	32.0
旧野党	急進左派連合(SYRIZA)	52	16.8
	独立ギリシャ人	33	10.6
	ギリシャ共産党(KKE)	26	8.5
	黄金の夜明け	21	7.0
	民主左派党	19	6.1
	計	151	48.9

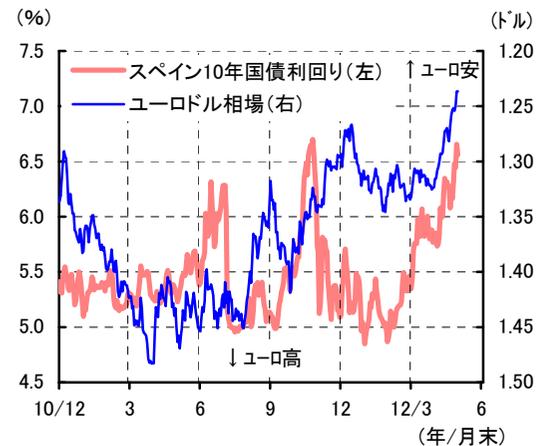
(資料)各種報道をもとに日本総研作成

スペインの銀行部門の不良債権比率と住宅価格指数(前年比)の推移



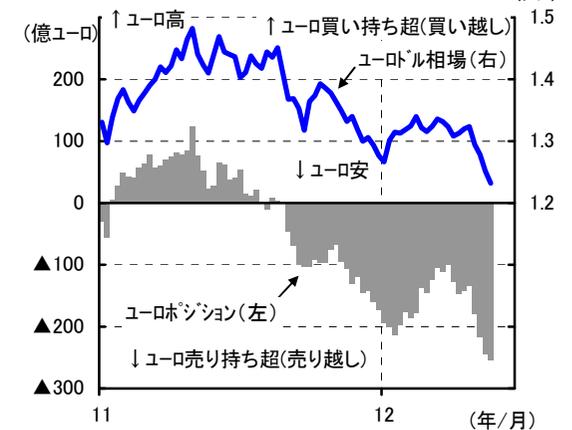
(資料)スペイン中銀をもとに日本総研作成
(注)住宅価格指数(前年比)は2001年以降。

スペインの10年国債利回りとユーロドル相場の推移



(資料)Bloomberg L.P.

シカゴIMM・ユーロポジション(非商業部門) (ドル)



(資料)米CFTC
(注)直近値は5/29。

(株)日本総合研究所 為替相場展望 2012年6月

ドル円、ユーロ相場の見通し

【ドル円】 80円を挟んだ円高値圏での推移が長期化する見通し。
 【ユーロ】 ユーロ軟調地合いが長期化する見通し。

＜ドル円相場の見通し＞

短期的には欧州情勢への懸念や米国景気の先行き懸念等を背景に、円高に振れやすい地合い。もっとも、①わが国貿易収支の赤字基調が継続していること、②わが国通貨当局が円高回避に向け強い姿勢を示していること、等から、一方的な円高進行の公算は小。米国景気の緩やかな回復基調が維持されるなか、今後、欧州情勢に対する過度な懸念が後退すれば、ドルが反発する公算。

もっとも、米国では2013年入り以降の財政赤字削減等により、中期的にみても米国景気の回復ペースは緩やかにとどまる見込み。米FRBによる超低金利政策の長期化が見込まれるなか、大幅なドル高進行も期待薄。この結果、80円を挟んだ円高値圏での推移が長期化する見通し。

＜ユーロ相場の見通し＞

ギリシャのユーロ圏離脱懸念やスペインの金融不安等を背景に、ユーロ軟調地合いが続く見通し。ギリシャのユーロ圏離脱は最終的に回避される公算が大きく、ギリシャのユーロ圏離脱懸念が払拭されれば、一旦ユーロが反発する可能性。もっとも、欧州債務問題の抜本的な解決が容易でないなか、周辺国の債務問題が断続的に蒸し返される展開が予想されることや、緊縮財政等を背景にユーロ圏景気が日米対比で軟調に推移する見込みであることから、持続的なユーロ高は期待薄。

ドル円相場見通し

	2012年				2013年
	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3
期中平均	79.3	80.0	80.0	81.0	81.0
(高値)	84.2	82	84	85	85
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	76.0	76	76	78	78

予測 →

ユーロ円相場見通し

	2012年				2013年
	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3
期中平均	104.0	102	100	100	99
(高値)	111.44	105	107	106	105
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	97.0	93	93	94	93

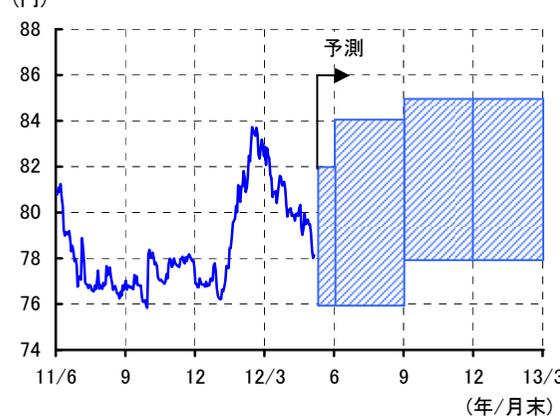
予測 →

ユーロドル相場見通し

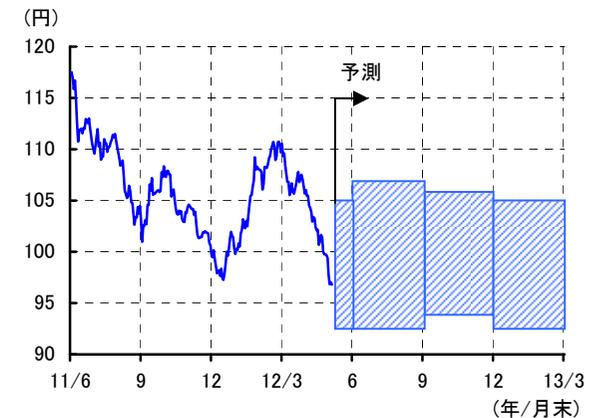
	(ドル)				
期中平均	1.31	1.27	1.25	1.23	1.22
(高値)	1.35	1.30	1.32	1.30	1.29
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	1.26	1.18	1.18	1.16	1.15

予測 →

ドル円相場見通し



ユーロ円相場見通し



内外市場データ（月中平均）

	短期金利		ユーロ円(TIBOR)		円・円スワップ			国債 10年物 (%)	プライムレート		為替相場		日経平均 株価 (円)	米国市場				欧州市場	
	公定歩合 (%)	無担0/N (%)	3カ月 (%)	6カ月 (%)	2年 (%)	5年 (%)	10年 (%)		短期 (%)	長期 (%)	¥/\$	¥/Eur		F F 0/N	1-03カ月	10年国債	N Y ダウ 工業株	1-03カ月	10年国債
09/1	0.30	0.120	0.73	0.78	0.75	0.94	1.26	1.25	1.475	2.25	90.41	119.68	8331.49	0.15	1.73	2.47	8396.20	2.45	3.09
09/2	0.30	0.111	0.71	0.77	0.72	0.89	1.19	1.29	1.475	2.25	92.50	118.33	7694.78	0.22	1.65	2.85	7749.01	1.96	3.17
09/3	0.30	0.100	0.68	0.75	0.74	0.91	1.25	1.30	1.475	2.25	97.87	127.44	7764.58	0.18	1.62	2.80	7235.47	1.63	3.06
09/4	0.30	0.104	0.62	0.72	0.75	0.99	1.39	1.44	1.475	2.30	99.00	130.50	8767.96	0.15	1.49	2.90	7992.12	1.42	3.19
09/5	0.30	0.102	0.58	0.70	0.69	0.94	1.36	1.44	1.475	2.10	96.30	131.92	9304.43	0.17	1.23	3.30	8398.37	1.28	3.42
09/6	0.30	0.104	0.56	0.68	0.68	0.92	1.41	1.47	1.475	2.10	96.52	135.46	9810.31	0.21	1.07	3.70	8593.00	1.23	3.55
09/7	0.30	0.102	0.56	0.67	0.62	0.86	1.37	1.34	1.475	1.90	94.50	133.00	9691.12	0.16	0.91	3.53	8679.75	0.95	3.36
09/8	0.30	0.106	0.55	0.66	0.60	0.88	1.46	1.37	1.475	1.95	94.84	135.40	10430.35	0.16	0.69	3.57	9375.06	0.83	3.33
09/9	0.30	0.102	0.53	0.65	0.56	0.83	1.41	1.31	1.475	1.80	91.49	132.80	10302.87	0.15	0.53	3.39	9634.97	0.73	3.29
09/10	0.30	0.106	0.53	0.64	0.58	0.86	1.47	1.33	1.475	1.70	90.29	133.87	10066.24	0.12	0.49	3.36	9857.34	0.69	3.23
09/11	0.30	0.105	0.52	0.63	0.56	0.83	1.48	1.35	1.475	1.85	89.19	132.98	9640.99	0.12	0.25	3.38	10227.55	0.67	3.28
09/12	0.30	0.101	0.47	0.59	0.48	0.71	1.39	1.26	1.475	1.65	89.55	130.95	10169.01	0.12	0.25	3.59	10433.44	0.67	3.23
10/1	0.30	0.096	0.45	0.57	0.48	0.72	1.42	1.33	1.475	1.65	91.16	130.30	10661.62	0.12	0.24	3.71	10471.24	0.63	3.29
10/2	0.30	0.101	0.44	0.56	0.47	0.72	1.41	1.33	1.475	1.65	90.28	123.58	10175.13	0.13	0.23	3.68	10214.51	0.60	3.19
10/3	0.30	0.097	0.44	0.55	0.46	0.71	1.40	1.34	1.475	1.60	90.52	122.96	10671.49	0.16	0.23	3.71	10677.52	0.59	3.13
10/4	0.30	0.093	0.41	0.52	0.47	0.72	1.40	1.35	1.475	1.65	93.38	125.57	11139.77	0.20	0.25	3.82	11052.15	0.59	3.09
10/5	0.30	0.091	0.39	0.50	0.48	0.69	1.34	1.27	1.475	1.60	91.74	114.68	10103.98	0.20	0.36	3.40	10500.19	0.63	2.80
10/6	0.30	0.095	0.39	0.50	0.47	0.65	1.27	1.20	1.475	1.45	90.92	110.99	9786.05	0.18	0.45	3.19	10159.25	0.66	2.63
10/7	0.30	0.094	0.37	0.49	0.45	0.59	1.16	1.09	1.475	1.45	87.72	111.81	9456.84	0.18	0.43	2.98	10222.24	0.79	2.65
10/8	0.30	0.095	0.37	0.49	0.43	0.54	1.04	0.98	1.475	1.45	85.47	110.36	9268.24	0.19	0.35	2.68	10350.40	0.83	2.37
10/9	0.30	0.090	0.36	0.47	0.41	0.55	1.13	1.06	1.475	1.45	84.38	109.94	9346.72	0.20	0.31	2.64	10598.07	0.83	2.34
10/10	0.30	0.091	0.34	0.45	0.38	0.47	0.97	0.89	1.475	1.30	81.87	113.65	9455.09	0.19	0.29	2.51	11044.49	0.94	2.37
10/11	0.30	0.091	0.34	0.45	0.40	0.55	1.12	1.05	1.475	1.40	82.48	112.64	9797.18	0.20	0.29	2.75	11198.31	0.98	2.56
10/12	0.30	0.087	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.19	1.475	1.60	83.41	110.28	10254.46	0.18	0.29	3.28	11465.26	0.95	2.96
11/1	0.30	0.085	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.21	1.475	1.50	82.63	110.53	10449.53	0.17	0.29	3.36	11802.37	0.95	3.05
11/2	0.30	0.093	0.34	0.45	0.43	0.71	1.34	1.28	1.475	1.65	82.53	112.70	10622.27	0.16	0.31	3.56	12190.00	1.04	3.23
11/3	0.30	0.085	0.34	0.45	0.40	0.64	1.29	1.25	1.475	1.60	81.79	114.48	9852.45	0.14	0.31	3.40	12081.48	1.13	3.25
11/4	0.30	0.062	0.33	0.44	0.39	0.65	1.32	1.27	1.475	1.70	83.35	120.34	9644.63	0.10	0.27	3.43	12434.88	1.27	3.35
11/5	0.30	0.069	0.33	0.44	0.37	0.56	1.19	1.14	1.475	1.55	81.23	116.03	9650.78	0.09	0.26	3.15	12579.99	1.38	3.11
11/6	0.30	0.069	0.33	0.44	0.37	0.54	1.15	1.13	1.475	1.50	80.51	115.82	9541.53	0.09	0.24	2.99	12097.31	1.43	2.97
11/7	0.30	0.073	0.33	0.44	0.37	0.53	1.13	1.11	1.475	1.50	79.47	113.52	9996.68	0.07	0.22	2.98	12515.68	1.54	2.78
11/8	0.30	0.081	0.33	0.44	0.33	0.46	1.03	1.02	1.475	1.35	77.22	110.62	9072.94	0.10	0.26	2.29	11326.62	1.50	2.25
11/9	0.30	0.080	0.33	0.43	0.34	0.46	1.00	1.00	1.475	1.40	76.84	105.89	8695.42	0.08	0.31	1.96	11175.45	1.48	1.87
11/10	0.30	0.081	0.33	0.43	0.35	0.47	1.01	1.01	1.475	1.40	76.77	105.24	8733.56	0.07	0.36	2.13	11515.93	1.51	2.04
11/11	0.30	0.073	0.31	0.41	0.35	0.45	0.95	0.94	1.475	1.40	77.54	105.05	8506.11	0.08	0.36	2.00	11804.33	1.43	1.95
11/12	0.30	0.078	0.33	0.43	0.38	0.49	1.00	1.00	1.475	1.40	77.85	102.54	8505.99	0.07	0.37	1.97	12075.68	1.36	1.99
12/1	0.30	0.081	0.33	0.43	0.37	0.47	0.98	0.97	1.475	1.40	76.97	99.35	8616.71	0.08	0.35	1.94	12550.89	1.16	1.86
12/2	0.30	0.085	0.33	0.44	0.35	0.46	0.98	0.96	1.475	1.40	78.45	103.85	9242.33	0.11	0.32	1.96	12889.05	0.98	1.90
12/3	0.30	0.084	0.33	0.44	0.35	0.48	1.04	1.00	1.475	1.35	82.43	108.83	9962.35	0.13	0.30	2.16	13079.47	0.76	1.88
12/4	0.30	0.084	0.33	0.44	0.35	0.46	0.98	0.95	1.475	1.35	81.49	107.14	9627.42	0.15	0.31	2.03	13030.75	0.66	1.73
12/5	0.30	0.084	0.33	0.37	0.35	0.43	0.89	0.85	1.475	1.35	79.70	101.95	8842.54	0.16	0.28	1.78	12721.08	0.61	1.46

(注) 公定歩合とプライムレートは月末値。